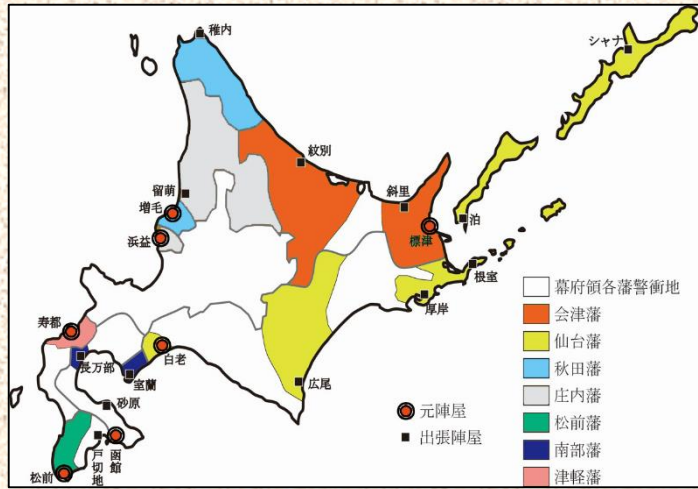


# 江戸末期、北方警備に当たった会津藩の足跡

**幕末**の北方警備は、安政元年

(一八五五年)に日魯通好条約が締結され、択捉島とウルップ島の間で国境が定められたことがきっかけとなり、安政二年から開始されました。

当初は、津軽・南部・仙台・秋田・松前の五藩で警備を行っていました。安政六年から蝦夷地を分割し、東北諸藩に領地として分け与えたため、警備と共に開拓も行う体制が出来上がりました。



安政六年の蝦夷地各藩領区分図  
(『北辺の会津藩旗～幕末会津藩史外伝』より引用)

**万延元年**(一八六〇年)、会津

藩は先遣隊を蝦夷地に派遣し、シベツを拠点として、領地の引き継ぎや現地の漁場番人、アイヌ達に新たな領内での取り決めを伝えるラムシャと呼ばれる儀式を行いました。こうした中で、会津藩は、根室海峡沿岸の西別川より北のメナシと呼ばれる地域とシャリ・モンベツといったオホーツク海沿岸の地域を領地として、そこに藩士とその家族二百人を派遣して開拓と防衛を始めたのです。

**元治元年**(一八六四年)に会津藩の絵師星暁邨(ほしぎょうそん)が制作したとされる「箱館港屏風」と「標津番屋屏風」は、会津藩の蝦夷地警備・開拓時代の箱館港と標津の様子を描いた二隻一対の六曲屏風です。

箱館港屏風には、多くの船が描かれ、その中には外国船も描かれています。当時の箱館港は、開港し自由貿易港となっており、異国との貿易で賑わう箱館港の様子を表現したものと考えられています。



箱館港屏風(新潟市西蔵寺所蔵)



標津番屋屏風(新潟市西蔵寺所蔵)

また、標津番屋屏風には水揚げした鮭を山漬けに加工している様子や長屋の建物と材木の山が描かれており、根室海峡沿岸地域の水産資源や木材資源の豊かさが表現されていると考えられています。この屏風からも当時の江戸幕府が外国の脅威に備えていたことが分かります。



会津藩士の墓(標津町指定文化財)



【幕末北方警備関係年表】

1789	寛政	元	クナシリ・メナシの戦い
1792		4	ロシア使節ラクスマン根室来航
1798		10	江戸幕府が近藤重蔵ら調査隊を蝦夷地に派遣 択捉島に「大日本恵登呂府」の木柱を設置
1799		11	幕府の東蝦夷地仮直轄
1804	文化	元	ロシア使節レザノフ長崎来航
1806		3	フヴォストフの樺太・択捉襲撃
1807		4	第一次北辺防衛出兵 (南部・津軽・秋田・庄内・仙台・会津)
1811		8	ディアナ号艦長ゴロウニンの捕縛
1812		9	高田屋嘉兵衛カムチャッカへ連行
1821		文政	4
1831	天保	2	日ロ接触が繰り返される
1853	嘉永	6	アメリカ使節ペリー来航 ロシア使節プチャーチン来航
1855	安政	元	日魯通好条約締結 択捉島とウルップ島の上に国境を定める
		2	幕府が蝦夷地全域を直轄し箱館奉行の管轄とする 津軽・南部・仙台・秋田・松前の5藩に蝦夷地警備を命じる
6		蝦夷地を分割し東北諸藩に領地として分け与える 松前藩を外し、津軽・南部・仙台・秋田に会津・庄内を加え 東北6藩による蝦夷地分割統治が始まる	

江戸末期、北方警備に当たった会津藩の足跡

(その二)

像・石碑等



◆所在地地図

会津藩士の墓(標津町指定文化財)

【住所】

標津郡標津町茶志骨フラワーロード